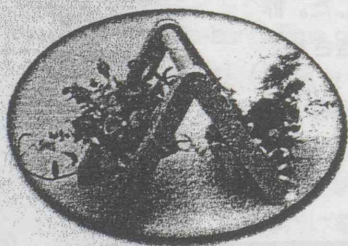


新理事長挨拶

日本精神保健看護学会誌第3号（1993年）の巻頭言で、池田明子先生は、精神保健法の改正に向けて本学会がまだ統一した見解を表明できないことから、3年目を迎えるにあたって何らかの意思表示ができないものだろうかと述べておられます。それから10年が過ぎました。2004年6月には第14回の学術集会が開かれます。この間、1995年には地下鉄サリン事件と阪神淡路大震災が、続いて経済不況を受けての中老年の自殺、17歳問題と呼ばれた少年事件などが立て続けに起こりました。時代の転換を実感せずにはおれません。その最中であって、精神医療・保健・福祉をめぐる状況もあれよあれよという間に変化し、人権擁護へとベクトルが向き始めたかにみえた時、いわゆる「心神喪失者医療観察法案」という悪法が可決されてしまいました。一方、精神病院は、病棟の70%を占めていた統合失調症の患者さんが50%を下回るようになり、人格障害と呼ばれる人々が闊歩する事態に右往左往しているという現状です。そして何よりもすさまじい変化は、機能分化に伴う病棟再編、医療費の抑制策による効率化志向

です。一時は、開放化をスローガンにしてきた病院が、今はクリニカルパスの導入や病院評価機構のお墨付きを求めて、生き残りをかけてひた走っています。そんな状況下で医療の最前線にいる看護職は、抱え込まざるを得ない矛盾に引き裂かれながら日々呻吟しています。自分たちの責任は何なのかと。看護学は実践学です。実践を高めることのない看護学はありません。そうであるならば、この困難な時代に、実践現場と教育・学問の現場はいついどこに向かって進んだらいいのでしょうか。羅針盤なき航海は無謀です。今回理事長をお引き受けするにあたって頭をよぎったのは、以上のような問題意識でした。本学会の会員の皆様がこの羅針盤削りに積極的にご参加くださることを熱望しております。

阿保 順子



新理事役割

第13回総会で承認された理事により、平成15年7月5日に平成15年度第1回理事会が開催されました。その会において今期の各理事の役割分担が以下のように決定されましたので、ご報告いたします。

理 事 長	阿保 順子
副 理 事 長	柴田 恭亮
編 集 委 員 会	荻野 雅、岡田 佳詠、永井 優子
教育活動委員会	國生 拓子、榊 恵子、柴田 恭亮
学術集会担当	末安 民生、佐久間えりか
庶務・会計	若狭 紅子、濱田 由紀、出口 禎子

(順不同)

さらに今期は以上の委員会活動のほか、日本学術会議に関連して柴田恭亮理事、池田明子幹事、式守晴子幹事が、また精神保健従事者団体懇談会に関連して佐久間えりか理事が主な窓口となり、会議への参加や連絡などを担当しています。

文責 庶務

第13回日本精神保健看護学会総会・学術集会

2003年5月31日、6月1日に東京千代田区の都市センターホテルにて、“精神科看護の経験”をテーマとした第13回日本精神保健看護学会総会・学術集会が開催されました。

“個人史としての精神科看護”と題した大会長である武井麻子氏の講演や“越境する看護－精神科ナースの経験－”のテーマでディスカッションされたシンポジウム、また一般演題でも“看護者の経験”と題した発表も多く、参加された方々は改めて自分たちの精神科看護師としての経験を振り返る機会になったと思います。加えて“仕事？それとも愛情？”と題された春日キスヨ氏の基調講演や、宮本真巳氏の“感性を磨く看護”の教育講演は、精神科看護の経験を振り返るだけでなく、明日からの看護を自分たちの経験を元にして、さらに発展させていきたいという気持ちを奮い立たせてくれるものでした。

台風が接近しておりあいにくの雨の中、多くの方々と楽しくディスカッションができ、印象の深い2日間となりました。

さて、学術集会と同時に第13回総会も開催されました。昨年度は役員選挙が行われましたので、その結果が報告されております。その際の議事録、平成14年度決算報告書、平成15年度予算を掲載しておりますので、お目通しください。

(文責：荻野)

日本精神保健看護学会 第14回 学術集会のご案内

メインテーマー 精神看護の近未来 《二極化現象を超えて》

第14回日本精神保健看護学会のご案内を新潟からできることを喜びに思います。新潟ではいま、大学・看護専門学校・臨床で働く看護師らが、臨床・教育能力を高め、最新の情報を得、同時に新潟からのメッセージを発信できることを願い、学術集会に向け力を一つにして準備を進めています。

今回の学術集会のテーマは「精神看護の近未来」です。近未来をどのように想像されるでしょうか。教育では精神看護学が不動のものとなり、大学も100校を超えました。一方、その9割近くを占める民間の精神病院によって支えられている精神科医療における看護は、いま大きな局面を迎えています。いわゆる病院の生き残りにうまく乗っていき、自立した看護を基盤に主体的な実践を成功させているところと、逆に看護の自立性や主体性を譲り渡し、経営者の意のままに易きに流れていくという、いわば看護の二極化現象が起きていると思われまます。ジレンマにさいなまれながら日々働いている看護師も多い状況にあります。こういった状況をうち破っていくためには何が必要なのでしょうか。今回は、教育と臨床の協働によって、状況を転換していくバネになるような

学会にしたいと考えました。臨床・学問・教育は重なり合いながら、大きな全体と一つの流れを形成していきます。しかし、それは小さな近未来の積み重ねの上でのことです。大所高所からではなく、現場の現実から這いつくばってこそ見えるものもあるはずで。

基調講演では、新しく日本精神保健看護学会の理事長になられた阿保順子先生にお願いしました。先生は、北海道医療大学の学部長と民間精神病院の副院長兼看護部長を兼任され、まさにその連携を実践されている貴重な体験を聞くことができると思われます。

新潟の6月は最高です。花々が咲き誇り日本海から吹きよせるそよ風は、皆様を優しく迎えてくれることでしよう。また、おいしいものも沢山で、ご飯も、お酒も肴も----。また、温泉は美人湯など、日頃の皆様のお疲れを癒してくれることでしよう。また、日本海に沈む夕日は格別です。ポスターには春の日の夕暮れをお届けします。豊かな自然の恵みの地新潟での学術集会に、是非多くの方々のお出でをお待ちしています。

■ 朱鷺メッセ会場アクセス



◆ 朱鷺メッセ交通アクセスページへ

<http://www.niigata-bandajijima.com/access/access0f.html>

新潟駅から（約10分）バスターミナル6番線・新潟交通17系統
佐渡汽船連絡「朱鷺メッセ」停留所下車

◆新潟空港からバス「万代シティバスセンター前」より徒歩10分

◆北陸信越自動車道-新潟西IC-新潟バイパス-紫竹山ICより約5km
駐車場は有料です。できるだけ電車やバスをご利用下さい。

第14回 日本精神保健学会総会・学術学会のお知らせ

第14回日本精神保健学会総会・学術集会は以下のように開催されます。

【とき】 平成16年6月12日(土)、6月13日(日)

【ところ】 朱鷺メッセ(新潟県新潟市万代島6番1号)

【参加費】 参加費会員6,000円 非会員7,000円
学生3,000円(大学院生はのぞく)

※当日参加の場合は、会員7,000円、非会員8,000円

学術集会に関する
お問い合わせ先

◆大会長 藤野ヤヨイ
〒951-8121 新潟市水道町1丁目5939番地
新潟青陵大学内
FAX 025-266-9461

◆大会事務局 (藤野・田口・渡辺・香月)
〒951-8518 新潟市旭町通2丁目6番地
FAX 025-227-2367

※お問い合わせはFAXでお願いいたします。

【メインテーマ】

精神看護の近未来 ～二極化現象を超えて～

【主なプログラム】

◆大会長講演

「精神看護の近未来

～今私たちができること～」 藤野ヤヨイ

(一般を対象に無料とします)

◆基調講演

「精神看護の近未来

～二極化現象を超えて～」 阿保 順子

(北海道医療大学)

ワークショップ、演題発表、シンポジウム参加申し込みは次号に郵便振り込み用紙を同封しますので必要事項をご記入の上申し込み下さい。

学術集会は12日午後からとなります。

事前申し込みは、平成16年5月31日までにお願いします。

一般演題募集について

本学会では、会員相互の意見情報の交流を重視した参加型の学会として十分なディスカッションの場としたいと考えています。萌芽的研究、実践報告、研究として発展段階にある演題も大いに歓迎します。単なる成果の発表だけでなく会員の皆様が日々行っている実践や研究を検討する場としてどうぞふるって申し込んでください。

① 発表ご希望の方は本号ニュースレターに同封のがきで演題名をお申し込みください。平成16年2月1日必着でお申し込みください。

② 演題を登録された方は、後ほど抄録用の手引きをお送りします。抄録原稿の締め切りは、3月1日必着です。なお、学会発表は会員であることになっていますので、非会員の方は早急に手続きをとってください。

学会へのお問い合わせについて

学会への入会手続き、学会誌のバックナンバーのお求め等に関するお問い合わせ、住所や所属の変更につきましても直接、下記までご連絡をお願いいたします。

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター 日本精神保健看護学会事務所

Tel:03(5814)5801 Fax:03(5814)5820

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
Letter*

編集後記

本来ならばニュースレターは9月に発行する予定でしたが、新しい編集委員会体制となり、今年度はちょっと時期がずれての発行となりました。楽しみにされていた方々、ごめんなさい。新しい理事たちは不慣れながらも学会の仕事に精力的に取り組んでおります。どうぞよろしくお願い致します。(0)

編集委員 永井優子 岡田佳詠 荻野 雅